

「多チャンネルはまだまだ売れる!のだから 今一度真剣に向き合うことが必要」と再確認

中谷博之

Nakatani Hiroyuki

(株)ちゅピCOM 代表取締役副社長 COO

二度目の 多チャンネルサミット開催

さる2024年2月28日、島根県松江市で、日本ケーブルテレビ連盟中国支部主催の「多チャンネル・松江サミット2024」が開催された。2023年3月に広島市で開催された多チャンネルサミットの第2弾イベント。

広島サミットがケーブル業界、多チャンネル業界双方にとって大変有意義なイベントだったという声を受けての2度目の開催となった。

このサミットは、昨今テレビ離れと言われている中、ケーブル事業者と多チャンネル事業者が一堂に会し、多チャンネルの良さと売り方を論じ、関係強化を図りながら来る2030年へ向けて共に歩み共に戦っていこうという趣旨で始まった。今回のサミットも2023年とほぼ同規模で、総勢218名(89社)が参加。中国支部通常会員83名、多チャンネル事業者74名の他にも全国から中国支部外のケーブル事業者48名が集まった。

チャンネル+ケーブル+スカパーが 多チャンネル拡販策を披露

本題のサミットのプログラムは別表のとおり。

冒頭の福浜秀利・日本ケーブルテレビ連盟中国支部長／石見ケーブルビジョン社長の主催者挨拶から始まり、学識者、多チャンネル業界とケーブル／衛星放送業界の代表者が多チャンネルの将来に向けて持論を展開した。

注目を集めたのが第一部最後の登壇者であるスカパーJSATの小川正人・取締役。ケーブル業界のイベントにスカパーという過去に例のない登壇となったが、多チャンネル拡販という点ではケーブル事業者と共通の課

題を抱えており、多チャンネル拡販のための3つの施策、即ち、基本プランやプロ野球セット等の拡販、ケーブル事業者向けのパススルーサービスの展開、衛星インフラコスト削減への取り組みなどが紹介された。

『VIVANT』制作の TBS福澤監督が登壇

第二部の特別講演では、TBSドラマ『VIVANT』大ヒットの立役者である福澤克雄監督が登壇した。『VIVANT』は、TBS系列の日曜劇場枠で放送。『半沢直樹』などで演出を務めた福澤監督によるオリジナルドラマで、制作には異例ともいえる高額な制作費が投入された。撮影はモンゴルと日本国内8都県で行われた大ヒット作品であるが、今回のサミットでは、福澤監督から番組制作秘話やケーブル業界に期待すること等を語ってもらった。

もともと、中国支部では、今回のサミットの目玉に『VIVANT』を計画、『VIVANT』のストーリーにおいて主人公が島根県を訪れるなど、物語における島根県の関与度が高いことから開催地を松江市に決定。また福澤監督と山陰ケーブルビジョンの石原俊太郎社長が慶應義塾大学ラグビー部の先輩後輩という間柄が福澤監督のサミット登壇実現に一役買ったという経緯もある。

その福澤監督は、「『VIVANT』は、外したらやばいとビビりながら制作したが、ヒットして良かった。ただ制作費は高額なので、これからの回収が大変」と現在の心情を吐露。ケーブルテレビ業界には常識を打ち破り各局合同で番組を作るなど新たなチャレンジが大事とエールを送った。

また、松江開催および『VIVANT』の記憶を残していただくため、福澤監督公式レシピで作ったお赤飯が中締